

宮脇淳子 倉山 満 藤岡信勝

東洋史研究者

憲政史研究者

教育研究者

# 昭和12年とは何か

世界史の中で、  
昭和12年という時代を  
多面的に問い直す、画期的試み!

「昭和12年学会」  
創立出版



◆**倉山 満**

私は、昭和12年を、「日露戦争に勝った後の、明治40年以降の平和ボケのなれの果て」という位置づけで考えています。昭和12年は、日本が敗戦に至る戦いが始まった年です。昭和6年の満洲事変は8年に終結し、12年に始まった支那事変が終わらないまま、大東亜戦争に突入して敗戦に至る。昭和12年とはそういう意味で重要です。

◆**宮脇淳子**

各学問の間でなかなか対話というものができない理由は、それぞれの学問は自分の背景や枠組みを持っているからです。そこで一気に一年間と限り、それぞれ専門分野が異なる研究者が可能な限りその年に合わせて話をする。すると、これまでの大きな体系ではなく、そこから切り出したもので歩み寄ることができません。

◆**藤岡信勝**

昭和という時代は、共産主義の脅威をきわめてひしひしと感じる時代に入っていました。また貧困問題といったものが、もう一つ、大きな問題の軸としてあったのではないかと。そういった問題に昭和という時代がどう対処してきたか、そういう角度で見ていく必要もあるのではないのでしょうか。

(本文より)

◎昭和12年（1937年）——盧溝橋事件、通州事件、上海事変、正定事件、南京事件が起き、支那事変（日中戦争）が始まった、日本にとって運命の年である。

◎この年の前後を「切り口」に、常識とされているあらゆるものを見直したい。

◎第二次世界大戦を目前に控えた昭和12年を、改めて世界史の中で俯瞰し、専門領域を超えた研究者たちと交流する中で、歴史の真実を追究する。

★ご注文は、書店の他、amazon、藤原書店（ホームページ、電話など）で受け付けます。

★2018年11月11日の第1回発表大会会場で、販売いたします。

藤原書店

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町523  
TEL 03-5272-0301 / FAX 03-5272-0450  
e-mail info@fujiwara-shoten.co.jp

◎定価=本体2200円+税

四六変判上製 264頁 2018年10月25日刊  
ISBN 978-4-86578-194-6